

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 712

所管部局	教育委員会	所管課	社会教育課	担当者名	大塚 道昭
事業名	史誌編さん事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	八木町史編さん事業			政策体系	251
会計	一般会計	科目	10.教育 - 5.社会 - 1.社会		

1. 事業の概要

特に八木町域において①歴史資料調査の実施、②資料の保存と活用、③歴史資料に対する普及啓発、④刊行物の編集発行と成果の還元

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

地域の歴史文化の理解に欠くことのできない歴史的・文化的遺産を保存し、次世代に継承する。特に八木町域内の歴史資料調査の実施、資料の保存と活用、歴史資料に対する普及啓発、刊行物の編集発行と成果の還元を図る。

②事業を実施する必要性

旧八木町において、これまで町史編さん事業が未実施であったことから、歴史的資料の損壊・消滅の恐れに対し、計画的・継続的な取り組みが必要である。

3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円		4,347	7,885	10,334	12,807	15,473	15,473
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円		4,182	5,548	7,914	2,887	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	6,334	6,050	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円		4,347	7,885	4,000	6,757	15,473
職員等の従事人員	人/年	—	—	2.55	2.98			
人件費	千円	—	—	7,811	11,098			
事業費総額	千円	—	—	10,148	13,517			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

編さん委員謝礼	1,334,260円
嘱託職員賃金	2,878,172円
臨時職員賃金	5,036,262円
歴史資料調査報告書刊行	264,320円

5. 事業結果の概要

- ・八木町史編纂委員会 4回開催
- ・専門部会
（考古、地理、文化財、古代、中世史、近世史、近現代史）
- ・「八木町史編さんだより」の発行
- ・八木町史編さん事業歴史資料調査報告書第3集の発行

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) 編さんに係る会議		
○南丹市八木町史編さん委員会（於 南丹市役所） 第3回 事業実施計画の変更、編さん基金執行状況報告	平成21年7月10日	参加者 編さん委員8名
○南丹市八木町史編集委員会（於 佛教大学） 第4回 町史の構成・仕様等の検討など 第5回 執筆要領の検討など 第6回 第1巻、第2巻目次の検討など	第4回 平成21年5月28日、第5回 平成21年12月4日、第6回 平成22年3月24日	参加者 編集委員4名
○南丹市八木町史編さん専門部会 4部会（考古・地理・文化財部会、古代・中世史部会、近世史部会、近現代史部会）の開催 各巻の構成、仕様などについて協議	考古・地理・文化財（7/23、12/15、2/24） 古代・中世史（4/3、10/30、2/23）、近世史（3/5）、近現代史（7/2、8/10、2/26）	参加者 部会委員 19名
(2) 歴史資料調査		
○歴史資料調査 区有文書、個人蔵文書の目録作成及び撮影等	通年（於 八木郷土資料館）	区、寺社、個人等で所有の資料調査及び整理、保存
(3) 普及・啓発		
○編さんたよりの発行 「八木町史編さんだより」の発行（南丹市立文化博物館発行「博物館だより」内に「八木町史編さんだより」欄を設けた）	平成22年3月発行	全戸配布による編さん事業の普及、啓発
○資料調査成果の公開 八木町史編さん事業歴史資料調査報告書第3集の発行	平成22年3月刊行	発行部数500部事業費資料調査成果の公開

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

4巻発刊について検討いただいた。
南丹市史につながる資料発掘として、また地域共有の歴史の再確認等として有効である。
限られた期間・財源・人員の中で、より効率的な事業展開ができるよう検討する。円滑な事業推進には市民協力も不可欠なことから、積極的な働きかけを行う。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①事業執行にあたり議論を重ねた点
編さん事務局の体制等について検討した。
- ②当該事業のアピール事項
本事業は、市民の連帯感の醸成や地域共有の歴史の再確認等に有効である。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
限られた期間・人員の中で、より効率的な事業展開ができるよう検討する。円滑な事業推進には市民協力も不可欠なことから、積極的な働きかけを行う。